

鹿児島にゆかりの女性たち

『総理大臣・大蔵大臣を務めた松方正義の母』

まつかた 松方 袈裟子 けさこ
【生年不明～1845】

鹿児島市は、西郷隆盛、大久保利通、松方正義など近代日本の国家づくりに貢献した人を数多く輩出しているが、そうした偉人の母親について語られることは少ない。また、郷中教育という薩摩藩独自の地域内での集団教育について語られることはあっても、家庭内での教育について語られることは皆無である。

松方袈裟子の四男にあたる松方正義は、薩摩藩の時代には島津久光の側近として藩政に従事し、新政府では日本銀行を設立、大蔵大臣、総理大臣を務めた。正義の母・袈裟子は、谷山の郷士・山下角兵衛の長女で、温厚、聡明で慈愛に満ちた人だった。松田（後に松方に改名）正恭に嫁いだ袈裟子は四男四女をもうけるが、赤貧洗うがごとくして明日の米を確保するのに苦労したという。

そんな中、袈裟子は虚弱だった正義に温泉治療を試みるなど献身的な看護を続けた。また、睡魔に襲われながら勉学に励む息子に「足継ぎに上がって勉強しなさい。足継ぎでうたた寝すると下に落ちて必ず目が覚めるから」と諭したとも。袈裟子は、正義がわずか11歳のときに亡くなるが、正義は後年「母の愛言は、自分が一生の運命を作る基であった」と語っている。 ※足継ぎとは、高いものを取るときに足場となる踏み台のこと。



松方正義 誕生の碑

この言葉の意味を知っていますか？

社会的性別(ジェンダー)の視点

人間には生まれつきの生物学的性別(セックス/sex)があります。一方、社会的通念や慣習の中には社会によって作りあげられた「男性像」「女性像」があり、このような男性、女性の別を社会的性別(ジェンダー/gender)といいます。社会的性別(ジェンダー)は、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、性差別、性別による固定的な役割分担、偏見等につながっている場合もあるので社会的につくられたものであることを意識していこうとするものです。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

女性が全生涯にわたって身体的・精神的・社会的に良好な状態をいいます。いつ何人子どもを産むか(産まないか)を選ぶ自由、安全で満足のいく性生活、安全な妊娠・出産、子どもが健康に育つこと、これらに関連して思春期や更年期における健康上の問題など、性と生殖に関する課題が含まれます。

【すてっぷ】第30号 編集後記

男女共同参画社会基本法が施行されてから10年が経過しましたが、男女共同参画の理念も市民の皆さんに徐々に浸透しつつあるのではないのでしょうか。今回は、10年を振り返るとともに新しい働き方、ワーク・ライフ・バランスもインタビュー記事で取り上げてみました。今後も基本的な考え方や用語などについて情報提供していきたいと思っております。

【表紙】男女共同参画都市宣言記念モニュメント

男女がお互いに尊重しあい、喜びも責任も分かち合い、共に社会を担っていかうとする姿を表しています。平成13年1月30日。鹿児島市は「男女共同参画都市かごしま」となることを宣言しました。

本冊子は、紙へのリサイクルに適した材料のみ用いて作成しています。